

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」 ～主体的・対話的で深い学びを通した算数科の工夫と改善～

I 研究内容

1 研究内容と方法

(1) 研究内容

- ア 理論研究，学習会 「算数」「道徳」
- イ 授業実践および授業公開の実施
- ウ 一人一実践の取り組み
- エ 児童の実態把握（学習アンケート等）
- オ 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携（基礎・基本の定着・学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み等）

(2) 研究方法

- ア 全体研究会とブロック研究会を取り入れた研究体制で研究を行う。
- イ 講師を招いて，児童の実態にあった理論研究，学習会を行う。
- ウ 授業研究をし，授業公開を行う。
- エ 児童，研究内容に関わるアンケートを行い，実態や変容について把握する。
- オ N R T 検査やQ-U等から児童の実態を把握し，具体的な指導法を研究する。
- カ 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携

2 具体的な取り組み

(1) 主体的・対話的で深い学びを通した授業づくり

- ア **主体的な学びの実現として**
 - ◇導入で児童を問題場面に引き込む工夫
 - ◇効果的な見通しと振り返りの工夫
- イ **対話的な学びの実現として**
 - ◇児童が話したくなる・聞きたくなる話し合い活動の場面の工夫
 - ◇ねらいを明確化した友達との相互作用のある話し合いの設定
- ウ **深い学びの実現として**
 - ◇学びを振り返り，考えを深める工夫

(2) 掲示物・板書の工夫

- ア 授業時に「めあて」と「まとめ」を提示する。
- イ 板書計画を考え，学習内容の定着を図る。

(3) Q-U調査の結果を分析

- ア **全校プロット図の作成**
 - ◇第1回の結果を受け，全校児童の位置を表した全校プロット図を作成。
- イ **各学級ごとのQ-U調査の結果を分析**
 - ◇ヘルプサイン・ポジティブチェック，K-13法（簡易版）を取り入れたQ-U調査の結果の分析を実施。ブロック研究会ごとに検討会を行い，各学級の実態に応じた取り組みを実践。

3 具体的実践

(1) 学習会

第1回『「主体的・対話的で深い学び」を通した算数科の工夫と改善のポイントについて』

講師：山梨県教育庁 義務教育課 教科指導担当 指導主事 櫻井順矢 先生
第2回『「考え，議論する道徳」の授業のポイントについて』

- 講師：山梨県教育庁 義務教育課 指導主事（道徳担当） 小尾 綾 先生
- (2) 実態調査
算数科に関わる学習アンケート（第1回 5月，第2回 2月）

(3) 授業実践

ア 研究授業

- ・第6学年 渡邊 大智教諭 算数科「順序よく整理して考えよう」
指導助言：甲州市 指導主事 山田 浩 先生

イ 授業公開（一人一実践）

- ・第1学年 金井 京子教諭 算数科「ひきざん」
- ・第3学年 篠塚 直粋教諭 算数科「□を使って場面を式に表そう」
- ・第4学年 伊藤 健 教諭 算数科「広さを調べよう」
- ・第5学年 前田 文 教諭 算数科「面積の求め方を考えよう」
- ・第3学年 相川 和彦教諭 算数科「かけ算の筆算の仕方を考えよう」
- ・コスモス 岡 ひさ江教諭 算数科「買い物をしよう」
- ・教務主任 内田 俊彦教諭 理科「電気と私たちの暮らし」

II 成果と課題

1 成果

- (1) 理論研究・学習会を通して、すぐに指導に生かしていくことができる実践的な知識を教えていただいた。子どもの問いや疑問をクラス全体に共有していく発問の工夫や、役割演技を取り入れるなどの指導の工夫を学ぶことができた。
- (2) 研究授業では、運動会という日常的な事柄を取り入れ、組み合わせへの関心を持たせる導入の工夫、めあてからまとめまでの一貫性のある授業展開、グループ討議を通して考えを深めていくことができる授業になっており、大変参考になった。
- (3) 一人一実践の授業公開では、発達段階に合ったテーマに即した授業が行われ、対話を取り入れた授業について学ぶことができた。また、「甲州市 Teacher's Note」に基づいた日常的な取り組みがわかる授業につながり、子どもたちががんばって授業に取り組んでいる姿に見ることができた。
- (4) Q-U調査結果のK-13法を用いた分析は、児童の実態の情報交換の場として、学級担任だけでなく全職員が目で学級づくりに関わることができた。また、結果を共有することで、同一歩調で一貫性のある指導や関わりをしていくことができた。

2 課題

- (1) 個人差の大きかった基礎・基本の定着に関しては、先生方の丁寧な指導によって埋められてきたようだが、「生きる力」を身につけるための表現という部分にはまだ課題がある。他者の考えを素直に受け入れ理解していくことや、それに対する自分の考えを言葉で表現する力に関しては、生活指導とも関連させていきながら、授業だけでなく、学校生活全体を踏まえて改善していく必要がある。
- (2) 対話的で深い学びができる前提として、間違っことを恐れず、また、間違っことに対してその子がいやな思いをしないような学級集団づくりについても研究していきたい。

III 成果物

- 1 研究授業及び公開授業の指導案 8点
- 2 算数科に関わるアンケート結果（2回実施）
- 3 Q-U調査の結果（2回実施）および全校プロット図

（研究主任 相川 和彦）